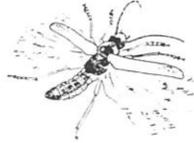
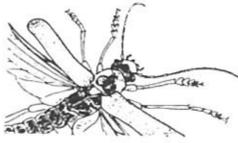


## 甲虫ニュース



No. 98 June 1992

## COLEOPTERISTS' NEWS

## オガサワラチャイロカミキリの帰属

新里達也

小笠原諸島および琉球列島～九州大隅半島南部に分布するオガサワラチャイロカミキリ *Comusia testacea* (Gressitt) は、わが国に分布するカミキリムシのなかでは、典型的な東洋区系要素であり、同属の最北限種としても良く知られている。本種は、Gressitt (1937) により、小笠原産の標本をもとに、ヒゲナガコバネカミキリ族の新属新種 *Ogasawara testacea* として記載命名され、現在はインドシナ地域に分布の中心を持つ *Comusia* 属の一員として扱われている。本種、というよりも、本種が含まれる *Comusia* 属については、その形態についての異なる評価から、これまでにいくつかの分類学的見解が提唱されてきた。本文ではそれらの経緯を整理するとともに、オガサワラチャイロカミキリの真の帰属について検討したい。

*Comusia* 属は、ミンダナオの *C. obriumoides* を基準種として、Thomson (1866) の提唱した「Xystroceritae」の一員として創設された属である。なお、この Xystroceritae は、その後と同じく Thomson による Methitae (1860, p. 364) などと併合され、カミキリ亜科内の大族であるアオスジカミキリ族 Methini (Oemini) を構成していることは、広く受け入れられている扱いである。

歴史的にみて、*Comusia* 属は、先の Thomson の原記載の所属を踏襲しておおむねアオスジカミキリ族に含められてきた。確かに本属のカミキリムシは、少なくとも背面から見る限りでは、その体形に印象付けられるだけでなく、頭部の触角窩から後方に長く伸びる内縁隆起や、触角の基部数節が著しく太いなどの特徴から、アオスジカミキリ属 *Xystrocera* やミヤマオニカミキリ属 *Oplatocera* などのア

オスジカミキリ族の属種を想起させる容姿を持っている。しかしながら、属の基準種である “*obriumoides*” (ムナミゾアメイロカミキリに似たの意) の種小名を持ち出すまでもなく、その特異な形態から所属についての異論は多く、本属の異名として記載された属には、アメイロカミキリ族 *Obrini* とする見解や、前記のようにヒゲナガコバネカミキリ族 *Molorchini* (現在のモモトコバネカミキリ族 *Stenopterini*) の一員とする意見も知られている。このような異論は、おもに成虫の雌腹板の形態に起因しており、腹部第 4-5 腹板 (可視第 2-3 腹板) の各後縁に長毛列を備える形態から、アオスジカミキリ族のほかのいかなる属種とも異なり、この二次性徴はむしろアメイロカミキリ族やモモトコバネカミキリ族に類縁を示す形態として評価されてきたからである。さらに、前肢基節窩の後縁が閉じる点も、この 2 族に共通する特徴として知られている。このような過去の異なる扱いを、それぞれ本属の異名として整理すると次のようである。

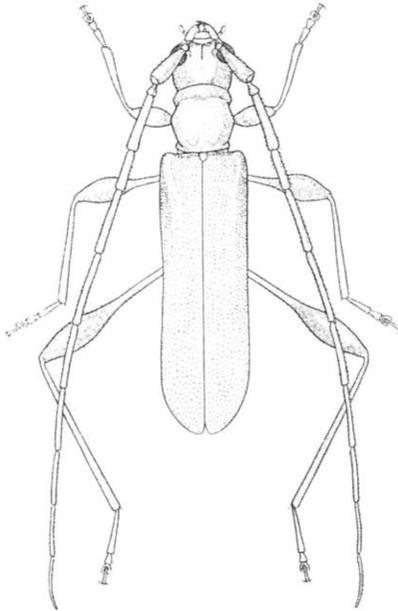


図 1. *Comusia testacea* (Gressitt), ♂.

Genus *Comusia* Thomson

*Comusia* Thomson, 1866, Syst. Ceramb., p. 249; type species: *C. obriumoides* Thomson, 1866, Mindanao. Methini (Xystroceritae).

*Ciopera* Pascoe, 1866, Zool. Soc. London, Proc., 1866, p. 510; type species: *C. decolorata* Pascoe, 1866, Penang. *Obrini* (*Obrinae*).

*Chapaon* Pic, 1922, Mém. exot.-ent., 36, p. 22; type species: *C. rufum* Pic, 1922, Tonkin. Undefined.

*Ogasawara* Gressitt, 1937, Kontyû, Tokyo, 11, p. 12, 40; type species: *O. testacea* Gressitt, 1937, Bonin Is. *Molorchini*.

*Oemospiloides* Fisher, 1940, Ind. For. Rec. (n. ser.). Ent.,

6, p. 197; type species: *O. bengalensis* FISHER, 1940, India. Methini (Oemini).

一方, MARTINS (1977) は, さきに述べた雌腹部腹板の構造にとくに着眼し, 具体的な根拠を背景としてはじめて, *Comusia* 属とそれに近縁な中央~南アフリカの *Oemida* 属と *Hypomares* 属をアメイロカミキリ族に移動させ, あわせて同族内に *Duffyoemida* 属を創設した. ただ, これより先に DUFFY (1957) は, 幼虫の形態から *Oemida* 属をアメイロカミキリ族に移動させており, MARTINS の論文はその見解を成虫の形態から裏付けたかたちになる. つい最近まで, これらの処置はわが国の研究者にはあまり受入れられておらず, 草間・高桑 (1984) が「日本産カミキリ大図鑑」の解説中にわずかにコメントしているに過ぎなかったが, SAITO (1991) は雌交尾器の形態の観察から, オガサワラチャイロカミキリはアオスジカミキリ族の「アオスジカミキリやベーツヤサカミキリの雌交尾器と著しく異なり」, 「MARTINS (1977) の見解を支持する」旨を述べている.

上記の見解を多少繰返すようなかたちにはなるが, ここで改めて, オガサワラチャイロカミキリの形態的特徴について記載し, 比較検討してみたい. オガサワラチャイロカミキリ *Comusia testacea* (Gressitt)

*Ogasawara testacea* GRESSITT, 1937, Kontyû, Tokyo, 11,

p. 321, fig. 2; type locality: Kiyose, Is. Chichi-jima, Bonin Isls.

*Ciopera testacea*: GRESSITT, 1959, Pacif. Ins., 1, p.88.

*Comusia testacea*: HAYASHI, 1962, Ent. Rev. Japan, 15, p. 3, pl. 1, fig. 3.

体は黄褐色~暗黄褐色で無紋, 体毛は短い. 頭部は幅広く, 複眼は側方にほどよく張り出し, 触角窩はやや深い縦溝となり, 頭頂前方に達する. 触角は長く, ♂で体長の 1.2 倍以上で, 第 1-5 節は太く, 各先端は膨らむ. 前胸背板は縦長で, 前後縁付近は強くくびれ, 背面はほぼ平坦. 前肢基節高後方は背板の伸張部が腹板突起に達し, 完全に閉鎖され, また外方は開裂する. 上翅は平坦で長い. 後翅は幅広く基部内縁がえぐることはない. 後肘脈 Pcu は肘脈中央基部よりから分岐し, その分岐付近で第 1 腎脈 1A<sub>1+2</sub> と合流し, 第 2 腎脈 2A+第 1 腎脈 1A<sub>3</sub> と第 3 腎脈 3A は中央付近で合流する. 翅垂脈 Jb はよく発達する. 中胸腹板突起は幅広く, 中肢基節窩は中胸後側板に開く.

雄. 腹部第 4-6 腹板中央付近にそれぞれ 1 対の短毛を伴う小隆起を持つ. 第 8 腹板先端中央は V 字状に深く開裂し, 同背板は両側は 1 対の弧状の突起を持つ. 交尾器中央片は弧状で, 腹板の先端は強く膨らみ, 背板は先端部には届かない. 側片は融合して, 細長いへら状で, 先端部に短毛を備える.

雌. 腹部第 3-4 節は幅広く, 第 3 節は第 4 節の 2

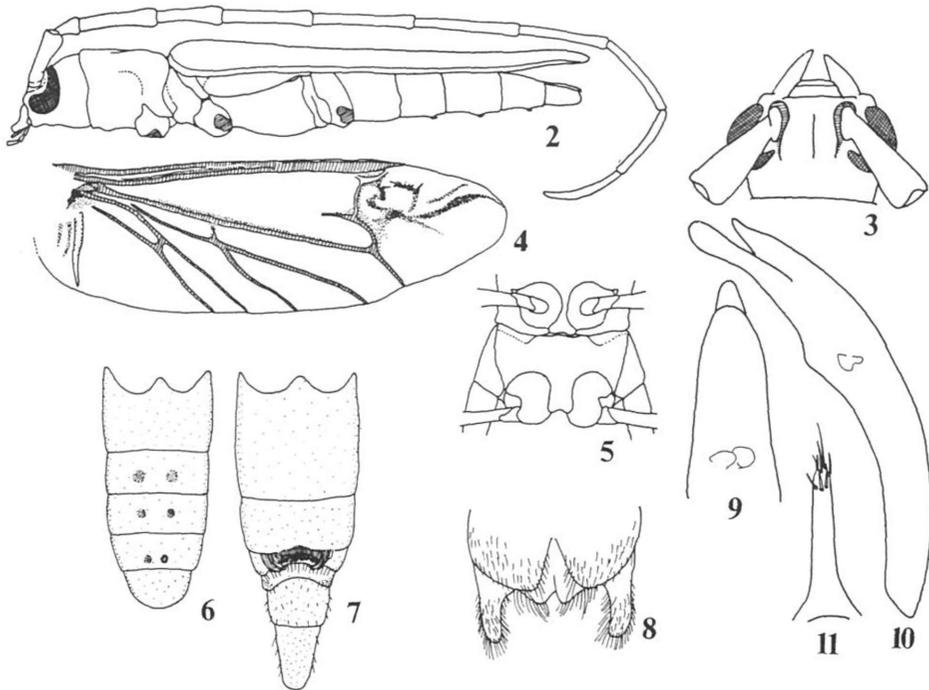


図 2~11. *Comusia testacea* (Gressitt). -2, 全形側面, ♂; 3, 頭部背面; 4, 後翅; 5, 前・中胸腹面; 6, 腹部腹節, ♂; 7, 同, ♀; 8, 腹部第 8 節腹面, ♂; 9, ♂交尾器中央片, 先端背面; 10, 同側面; 11, ♂交尾器側片.

倍以上の長さ。腹部第4節の後縁は弧状にえぐれ、側方を除き長毛列を密に備え、第5-6節は著しく短縮し、後縁はゆるやかにえぐれ、第5節には長毛を疎生する。腹部第7節は通常、第8節は外部に露出し、細長い。

検視標本、7♂♂、2♀♀、小笠原諸島父島、VII. 1990羽化脱出、15.VI.1989食入材採取、大本徳造採集、屋久島大川林道：1♂、24.VII.1975、秋山秀雄採集；1♂、27.VII.1975、分島徹人採集；1♂、VII.1975、林 良一採集；1♂、1♀、31.VII.1976、奥田良秀採集。

形態の観察結果によれば、MARTINS (1977) が扱ったように、オガサワラチャイロカミキリはアメイロカミキリ族かモモトコバネカミキリ族のいずれか、あるいは両者に近縁な1群に所属されるべきであることがわかる。アオスジカミキリ族とは触角窩および触角の特徴で類縁を示すが、そのほかの多くの基本的形質は、この族とは異なっている。

オガサワラチャイロカミキリの後翅脈相は、後肘脈Pcuがほぼ完全で、第1臀脈 $1A_{1+2}$ がよく発達する状態から、カミキリ亜科のなかでは比較的祖先的な状態を保っている。このような翅脈相を持つ族は多く、トビイロカミキリ族やアメイロカミキリ族、スギカミキリ族などと共通であり、第1臀脈 $1A_{1+2}$ や翅垂脈Jbが消失傾向にあるモモトコバネカミキリ族とは異なっている。一方、胸部腹面の構造では、中肢節窩が外方に開く点だけをとるならば、この部分が外方に閉じるアメイロカミキリ族よりもむしろモモトコバネカミキリ族に類縁が深い。しかしながら、この形質の状態は、オガサワラチャイロカミキリとモモトコバネカミキリ族が共有する固有新形質ではなく、遠縁と思われるために、ここでは比較対象にあげなかったカミキリ亜科の他族にも、普遍的にみられる状態である。また、雄交尾器の一般的な特徴は、融合した側片が存在することから、アメイロカミキリ族では比較的祖先的な状態を保っているムナミゾアメイロカミキリ属 *Obrium* に共通する部分が多い。この点では著しく特殊化の進んだ中央片を持つモモトコバネカミキリ族のモモトコバネカミキリ属 *Merionoeda* などとは異なっている。また、今回図示しなかった雌交尾器については、SAITO (1991) に詳細な記載があり、斉藤 (私信) によれば、アメイロカミキリ族に類縁が深いという。

最後に、もっとも重要な特徴である、雌の腹部腹板の構造は、アメイロカミキリ族とモモトコバネカミキリ族やその近縁群に広く現われ、これらとの類縁性が強く支持される形質である。北アメリカでは、アメイロカミキリ族の雌は、この長毛を用いて寄主植物上の塵や細毛をかきあつめ、産付後の卵を隠蔽する行動をとることが観察されており、おそらく他族の雌も同様の行動を行なうもの推測される。ここで、興味深いのは、オガサワラチャイロカミキリの雄の第4-6腹板にあらわれる特異な構造であ

る。この構造は、痕跡的ではあるが、1対の短毛を伴う隆起として認められる。この雄の形質は、特殊化した雌の第4-6腹板と同一部位に現われ、明らかに相同器官と思われる。したがって、このような腹部第4-6腹板にあらわれる構造は、形質の発源状態からみても、単に雌の二次性徴ではなく、これら近縁群に共有の固有新形質であるものと考えられる。ただし、この形質は多くの場合は雄で退化し、雌では産卵習性の複雑化に伴い発達している。そして、オガサワラチャイロカミキリのような比較的祖先的な形質を残すカミキリムシには、雄においても認められるものと考えられる。

腹部第4-6腹板に特異な構造を持つアメイロカミキリとその近縁群は、少なくとも、汎世界的なアメイロカミキリ族をはじめ、モモトコバネカミキリ族 (オーストリア区を除く全区)、Hyboderini 族 (全北区に固有) の3族が知られるが、それぞれについて比較形態学的な検討は十分にされていないのが現状である。たとえば、ヨーロッパの研究者はモモトコバネカミキリ族にHyboderini 族を併合しているし、Hyboderini 族にしてもアメイロカミキリ族と異なるのは、前肢節窩が後方に開く点だけである。ただし、オガサワラチャイロカミキリは、比較的祖先的な形質をとどめたカミキリムシであることから、派生的なモモトコバネカミキリ族などとは異なり、アメイロカミキリ族の祖先的な属と比肩されるべきものと考えられる。すでに述べたように、オガサワラチャイロカミキリにもっとも類縁が深いのは、中央アフリカの *Oemida* 属などの、アメイロカミキリ族なかでは、とくに体が大きく、祖先的な形質を持つ特異な1群である。形態的特殊化の進んだことにより派生関係の探索が困難なアメイロカミキリ族群にあっては、このような祖先形質を残すカミキリムシが、結構有益なヒントをわれわれに与えてくれるようである。

## 引用文献

- DUFFY E. A. J., 1957. A monograph of immature stages of African Timber beetles (Cerambycidae), VIII + 338 pp., 10 pls. Brit. Mus. (Nat. Hist.), London.
- FISHER, W. S., 1940. New Cerambycidae from India, II. *Ind. For. Rec.*, 6: 197-212.
- GRESSITT, J. L., 1937. *Kontyû, Tokyo*, 11: 317-326, 1 pl.
- 1959. Longicorn beetles from New Guinea, I. *Pacif. Ins.*, 1: 59-171.
- 草間慶一・高桑正敏, 1984. カミキリ亜科. 日本鞘翅目学会編: 日本産カミキリ大図鑑, pp. 249-351, pls. 26-48.
- MARTINS, U. R., 1977. Transference of the genera *Oemida* GAHAN, *Comusia* THOMSON and *Hypomares* THOMSON from the Methini to Obrini (Coleoptera, Cerambycidae). *Papés Avulsos Zool.*, 31: 103-118.
- 新里達也, 1986. 日本産ヒゲナガコバネカミキリ属. 昆虫と自然, 21 (12): 7-12.
- PASCOE, F. P., 1866. Catalogue of Longicorn Coleoptera collected in the Island of Penang by JAMES LAMB.

Esq., part II. *Proc. Zool. Soc., London*, 1866: 504-536, pls. XLI-XLIII.  
 Pic, M., 1922. Nouveautés diverses. *Mél. Exot.-Ent.*, 36: 1-32.  
 SAITO, A., 1991. II. Methini through Callidiopini. Female

reproductive organs of cerambycid beetles from Japan and the neighbouring areas. *Elytra, Tokyo*, 19: 167-178.  
 THOMSON, M. J., 1866. *Syst. Ceramb.*, 538 pp.  
 ((株)環境指標生物)

### ○ *Phacophallus flavipennis* (KRAATZ) を愛知県で採集 (ハネカクシ科)

本種は4.7~5.0mm ぐらいの中型のハネカクシである。適当な和名はなく、日本産昆虫総目録 I (1989) では本州未記録になっている。

本種の採集者である間野隆裕氏は愛知県海部(アマ)郡美和町にお住いで、自宅に灯火採集装置をセットし、蛾の調査に専念しておられるが、最近蛾以外の昆虫、特に甲虫を全て私に御恵送下された。美和町は尾張沖積平野にある田園地帯で、樹木といえば住宅の庭か、寺社林しかない。甲虫は130種灯火に飛来していて、その中に8頭の本種が含まれていた。同定して下さった柴田泰利氏と、標本を御恵送下された間野氏に、感謝の意を表したい。



産地: 愛知県海部(アマ)郡美和町篠田。

採集者: 間野隆裕, 灯火採集。

採集年月日: 1頭, 9. vii. 1981; 3頭, 11. vii. 1989; 2頭, 21. vii. 1989; 1頭, 8. vii. 1990; 1頭, 13. viii. 1990. (愛知県小牧市, 穂積俊文)

### ○オカモトツヤアナハネムシの一知見

昨年(1991年)6月9日に、静岡県三ッ峰(静岡駅から安倍川沿いに梅ヶ島方面に向かい、途中で左折して大井川の井川方面に行くと富士見峠へ出る。この峠のすぐ南側が三ッ峰。標高1,350m)を初めて訪れた際、オカモトツヤアナハネムシを採集した。

今まで筆者は富士山の静岡県側と山梨県側で1頭ずつ偶然に飛んでいる本種を採集したことはあったが、今回はヒメジャラの50~60cmもある太い生きている倒木の幹を這っている1♂1♀を採集した。

時刻は午前11時半頃で、さらに14時頃もう一度この木を見に行くと、また1♂が来ていたので、

この木に何らかの関係があることは間違いないものと思われる。

なお、地元の虫屋によると、ここでは本種は普通に見られるとのことであった。

三ッ峰は狭い範囲ながらブナ、リョウブ、ヒメジャラ、タンナサワフタギなどを主体にした自然林が残されており、各種の甲虫の採集に向いている。この日もオカモトツヤアナハネムシのほか、ネアカツツナガクチキ、トゲムネツツナガクチキ、ヨツモンホソナガクチキ、オオナガクチキなど、なかなか得がたいナガクチキを採集することができた。

(神奈川県逗子市, 露木繁雄)

### ○東京都心部でクロカタビロオサムシを採集

クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczii* (MORAWITZ) は、ブナの原生林、自然度の高いクヌギ林等に生息し、良好な自然環境の指標となり得る種である。本種が東京都心部で発見されるようなことはもはや考えられないと思っていたが、偶然の機会に採集することができたので報告する。

1♀, 東京都中央区銀座(マリオンビル前), 16. vii. 1991, 芳賀 馨採集(写真)。



コンクリート舗装の上を這っていた。右後脛節が途中で折れているのは、ビルの周囲に群生しているドバトに攻撃されたためと思われる。採集地点の周囲には本種が生息できるような環境はなく、街路樹の植替え等も行われていなかった。至近距離には京浜東北線等の線路があるので、鉄道で運ばれて来た可能性が高い。

(東京都調布市, 芳賀 馨)

日本産マンマルコガネ科概説(続)

越智輝雄

科の特徴

成虫 体を自由に伸縮することができ、完全に球状にすることができる。体長は10 mm以下で、小型種で約3 mm、たいていは5 mm前後の種が多い。PAULIANの最近の原記載では体を球状にした時(丸くなった時)の長さも表記し、体長として記述している。体は極めて強く膨隆し、一般に光沢の強い種が多いが、つや消しの種もあり、また、弱い金属光沢を帯びる種から属により強い金属光沢(銅色や赤銅色、緑銅色等)を帯びる種まである。体色は一般に黒色ないし黒かっ色の種が多い。頭部は五角形に形造られる。眼は比較的小さく、眼縁突起は、これを全く欠くものからやや発達したもの、眼を完全に二分するものまで段階があり、属を分ける際に重要視されている。頭部上面は点刻や顆粒、彫刻を伴うものまで多様である。触角は9-10節で、片状節は3節。口器は頭楯の下に隠されるが、頭楯に癒着せず、深い溝によって分離される。上唇は明瞭で前縁は丸められる。大顎は基部が広く、内側に大顎内葉を具える。小顎ひげは4節からなる。下唇は下唇基節が前縁中央で深く切れ込み、下唇ひげは3節からなる。前胸背はよく膨隆し、概して単純に形造られるが、種により瘤や隆条を具えることもある。上翅は半球状に強くふくらみ、上面は単純に形造られ

る種から瘤や隆起縁を具える種まである。上翅の側縁近くにはたいてい縦溝あるいは、条刻溝を具える。小楯板は大きく三角形。腹部は上翅内側の奥深くまで小さく退化し、腹節は5節からなり、薄くてスクレロチン化の程度が低い。前脛節はやや太短く、外側に歯を具えることが多く、この歯の有無や発達の度合いが属を分ける特徴にもなっている。中、後脛節は幅広く、大きく板状に広がり、特に、後脛節は通常、三角形。♂交尾器は基片が比較的長く、下方に強く曲がり側片は短いものから長くよく発達するものまであり、たいていの種では左右非対称に形造られる。後翅脈は臀脈と肘脈との間に一脈を具え、中脈と肘脈との連結脈は弱いが明瞭で、これを欠くものもある。後翅は正常に発達するが、日本産の種では退化する。雌雄は非常に似ており、外部形態での区別は難しい。

幼虫 幼虫は体が白色で、日本産の幼虫では頭部は黄色をしている。体形はいわゆるジムシ型をしており、細長く、体を腹側にC字状に曲げる。頭楯は短く、横長である。上唇は大きく発達して、前縁が粗い鋸歯状となり、複雑に形作られる。この上唇前縁が粗い鋸歯状となる特徴はコガネムシ上科においては際立っており、他のコガネムシ上科の幼虫から区別する重要な特徴であると考えられる。上唇

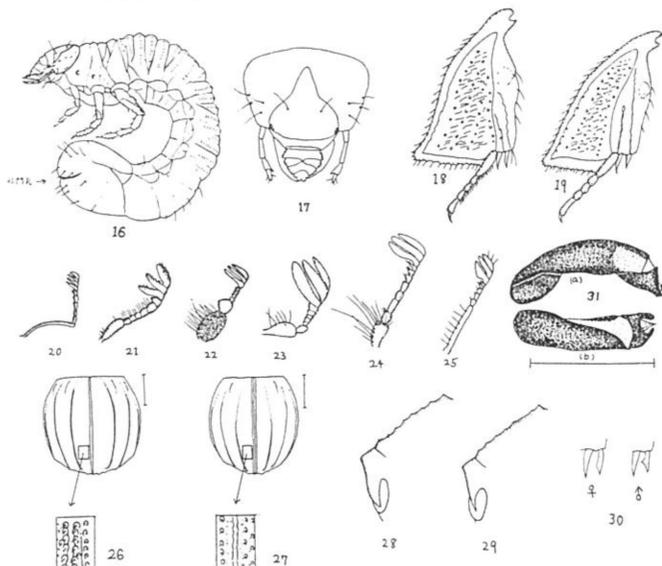


図 16~31. 16, 17: トカラマンマルコガネの幼虫, 頭部; 18: サキシマンマルコガネ♀後脛節(腹節側); 19: トカラマンマルコガネ; 20: ミヤマクワガタの触角; 21: オニツククロツヤムシ; 22: ヒメコブスジコガネ; 23: サキシマンマルコガネ; 24: センチコガネ; 25: ゴホンダイコクコガネ; 26: トカラマンマルコガネの上翅と点刻; 27: サキシマンマルコガネ; 28: サキシマンマルコガネの複眼; 29: トカラマンマルコガネ; 30: サキシマンマルコガネの後脛節端刺; 31: サキシマンマルコガネ♂交尾器。

の表面はトカラマンマルコガネでは 3 本の横長の隆起線をもつが、北米～南米にかけて分布する *Germarostes aphodioides* (ILLIGER) では、瘤状となるなど属により大きな違いが見られる。触角は 4 節、脚の爪は正常な形で、長い。肛門孔は尾端の背面寄りに位置し、横に裂ける。この肛門孔の位置も他のコガネムシ上科の幼虫に比べ著しく異なっている。近縁のコブスジコガネ科では幼虫の肛門孔が Y 裂状をなし、また、その位置も背面寄りではなく、尾端近くに位置することを考えると、コブスジコガネ科とも幼虫形態に大きな違いが見られる。発音器については、PAULIAN (1982) によると、前述した *G. aphodioides* の口器および、後脚と中脚とに存在することが報告されているが、日本産の種については筆者はまだ検討していない。

#### 日本産マンマルコガネ属の属と種

日本には次の 1 属が知られている。

Genus *Madrastos* R. PAULIAN, 1975 マンマルコガネ属 模式種: *Madrastos nigrum* R. PAULIAN, 1975 (南インド産)

現在まで東南アジアを中心に 11 種が知られ、日本からは 2 種が琉球列島に分布している。この属の主な特徴として、眼縁突起はよく発達するが完全に眼を二分するまでには至らず、触角は 10 節、体上面の毛は単純であり、こん棒状になることはなく、前脛節は外側で鋸歯状となることなどが挙げられる。体の色は黒色の種が多く、緑銅光沢や青銅光沢を帯びる種も見られる。

#### 日本産マンマルコガネ属の種の検索

1 (2) 眼は比較的大きく、頬はあまり横に突出せず、眼縁突起は眼の前方より 2/3 を覆う。上翅は輪郭がやや四角形に近く、4 本の縦隆は強く、明瞭に隆起し、第 1 条は基部近くまで達し、第 2 条は後方から 5/6 近くまで明瞭、第 3 条は後方から 2/3 近くまで明瞭、第 4 条は後方から中央近くまで明瞭。上翅間室の点刻は馬蹄形に点刻され、点刻は密で粗い。後脛節の腹節側の面は内側の平滑部が幅広く、隆線で囲まれた部分は狭く、しわ状にやや密に点刻される。(図 10, 16, 17, 19, 26)

……………*kazumai* OCHI, JOHKI & NAKATA

2 (1) 眼は比較的小さく、頬は横にやや広く突出し、眼縁突起は眼の前方より 5/7 を覆う。上翅は輪郭がほぼ丸く、4 本の縦隆は弱くて、第 1 条は後方から中央まで明瞭で、そこから不明瞭になり、第 2 条は第 1 条よりも発達し、第 3 条は後方から 2/3 近くまで明瞭で、第 4 条は後方から中央まで明瞭。上翅間室の点刻は馬蹄形に点刻され、点刻は疎らで、やや小さい。後脛節の腹節側の面は内側の平滑部が幅狭く、隆線で囲まれた部分は広くて、しわ状にやや疎らに点刻される。(図 1, 3, 18, 27, 28, 30) ……………*hisamatsui* OCHI

1. *M. kazumai* OCHI, JOHKI & NAKATA, 1990 トカ

ラマンマルコガネ

*Madrastos kazumai* OCHI, JOHKI & NAKATA, 1990, *Jpn. J. Ent.*, 58: 31-34—OCHI, *Ent. Rev. Japan, Osaka*, 45: 113-117—TSUKAMOTO, 1991, *Saikaku, Tokyo*, 10: 36-37.

本種はトカラ列島中之島で採集された 13 ♀♀を基に記載された種であり、その後も中之島からしか記録の追加がない。体は光沢のある黒色で、頭部上面は中心に向かって粗い点刻と彫刻が渦状に配列される。頭楯中央は前方に突出して、鋭い一つの歯を具える。前胸背は全縁に二条の縁取りを具え、側縁は前方より 1/3 まで真直で、そこから後方にむかって丸められる。上翅はやや四角形に近い輪郭をしており、4 本の発達した縦隆を具える。後翅は小さく退化しており、飛行できない。♂は未見。

体長: 5.8~6.2 mm.

分布: 日本 (トカラ列島中之島)。

2. *M. hisamatsui* OCHI, 1990 サキシママンマルコガネ

*Madrastos hisamatsui* OCHI, 1990, *Ent. Rev. Japan, Osaka*, 45: 113-117—TSUKAMOTO, 1991, *Saikaku, Tokyo*, 10: 36-37.

本種は石垣島のパンナ岳で採集された 1 ♀を模式標本として、石垣、西表両島から記載された種である。前種に近縁であるが、頬の突出具合や眼縁突起、上翅の形態と表面の状態、後脛節の腹節側の表面の状態等で明らかに区別される。原記載の時点では、検視標本が少なく雌雄の区別点を挙げるのができなかった。♂は後脛節端刺の下方が内側に向かって明瞭に刺状となり、♀はやや単純な形になる(図 30)。前脛節は、♀の方が外歯がやや強いようであるが確実に区別し難い。後翅は前種同様に退化している。後翅の中脈と肘脈との間の連結脈はよく発達している。

体長: 5.4~6.0 mm.

分布: 日本 (先島諸島石垣島、西表島)。

あとがき 筆者は既に他の所で研究史を中心にしたマンマルコガネ科の概説をした(昆虫と自然, 1990)。その際に世界と、東洋区の属数に誤りがあり、本稿でも訂正をしておいた。ここでは、生態と日本における本科甲虫の分類学的な位置付けを中心に概説を試みた。コガネムシ上科に含まれる科、亜科の位置付けについては、議論の分かれる所であるが、ここでは筆者らの解説した原色日本甲虫図鑑(II)での扱いに従った。

\* 後翅脈 A: 臀脈, Cu: 肘脈, M: 中脈と肘脈との連結脈, R: 径脈, (D1: 第 1 臀脈, D2: 第 2 臀脈, ここでは中脈と肘脈との間の脈の本数を示す)

謝辞 本研究でいろいろとお世話になった愛媛大学農学部昆虫学教室の久松定成氏、東京農業大学昆虫学研究室の岡島秀治博士に心から感謝を表します。

また、いろいろと御協力頂いた、日本大学農獣医

学部林学科の岩田隆太郎博士，京都大学理学部動物学教室の荒谷邦雄氏，近雅博博士，昭和女子大学家政学部の常喜豊博士，大阪市立自然史博物館の宮武頼夫氏，金沢至氏，大妻女子大学の益本仁雄博士，さらに，筆者の友人の野村全，松田潔，遠山雅夫，中田隆昭，大石久志，加藤敦史，伊東武の諸氏にお礼申し上げたい。最後に，常日頃からお指導頂いている国立科学博物館の上野俊一博士に心からお礼申し上げます。

### 主な参考文献

- 荒谷邦雄 1992. クワガタムシ科の雄蛹交尾器の形態について. 昆虫と自然, 27 (4): 28-37.
- ・大淵武広・越智輝雄, 1991. クワガタムシの眼. 昆虫と自然, 26 (7): 21-34.
- ARNETT, R. H., 1973. The Beetles of the United States, 387-438. Michigan.
- ARROW, G. J., 1949. The fauna of India including Pakistan, Ceylon, Burma, and Malaysia, Coleoptera Lamellicornia, 6, 1-274. Cambridge.
- BALTHASAR, V., 1963. Monographie der Scarabaeidae und Aphodiidae der palaearktischen und orientalischen Region, 1, 1-391. Prag.
- BENESH, B., 1960. Lucanidae. In HINCKS, W. D., (ed.), Coleopterorum Catalogus, Supplementa, 8: 1-178. W. Junk's-Gravenhage.
- BOVING, A. G., & F. C. CRAIGHEAD, 1931. An illustrated synopsis of the principal larval forms of the order Coleoptera. *Ent. Amer.*, 11: 51-55, pls. 87-88 (larvae of Scarabaeoidea).
- CARTWRIGHT, O. L., & F. E. CHALUMEAU, 1978. Bredin-Archbold-Smithsonian Biological Survey of Dominica (Col., Scarabaeoidea). *Smithonian Co. Zool.*, (279): 1-32.
- CROWSON, R. A., 1967. The natural classification of the families of Coleoptera, 40-48. Middlesex.
- HAAF, E., 1953. Die africanischen und orientalischen Arten der Gattung *Trox* (Col. Scarab.). *Ent. Arb. Mus. G. Frey*, 5: 326-393.
- 1954. Die australischen Arten der Gattung *Trox* (Col. Scarab.). *Ibid.*, 5: 691-740.
- 林 長閑, 1986. 森本 桂・林 長閑 (編著), 原色日本甲虫図鑑 (I): 202-218.
- 久松定成, 1987. 第 27 回日本昆虫学会四国支部大会講演要旨.
- 平嶋義宏・森本 桂・多田内修, 1989. 昆虫分類, 316-318.
- IABLOKOFF-KHUNZORIAN, S. M., 1977. Über die Phylogenie der Lamellicornia. *Entom. Abh. Mus. Tierk. Dresden*, 41 (5): 135-200.
- 岩田隆太郎・荒谷邦雄・常喜 豊, 1990. 第 50 回日本昆虫学会講演要旨.
- 小林裕和, 1985. 上野俊一, 黒沢良彦, 佐藤正孝 (編著), 原色日本甲虫図鑑 (II): 381-404.
- 黒沢良彦, 1976. 日本産甲虫目録, 第 1 集, クワガタムシ科, 1-9.
- 1976. 日本産甲虫目録, 第 2 集, クロツヤムシ科, 1.
- 1985. 上野俊一, 黒沢良彦, 佐藤正孝 (編著), 原色日本甲虫図鑑 (II): 329-346, 404-419.
- LACORDAIRE, T., 1856. Genera des Coleopteres, 3, 1-594. Paris.
- 益本仁雄, 1967. 日本産コガネムシ類解説 [食糞群] I. 昆虫と自然, 2 (1): 33-35.
- 1973. フン虫の観察と採集, 52-95.
- 1985. 上野俊一, 黒沢良彦, 佐藤正孝 (編著), 原色日本甲虫図鑑 (II): 346-353, 365-378.
- 森本 桂, 1986. 森本 桂, 林 長閑 (編著), 原色日本甲虫図鑑 (I): 37-64.
- 中根猛彦, 1952. 日本のこがねむし (II). *Ent. Rev. Japan*, 6: 21-24.
- 1963. 原色昆虫大図鑑 II: 111-122.
- ・塚本圭一, 1955. 日本産コブスジコガネの分類. *Akitsu*, 4 (4): 85-92.
- NOMURA, S., 1960. List of Japanese Scarabaeoidea (Coleoptera). *Toho Gakuho*, 10: 39-79.
- 野村 鎮, 1963. 原色昆虫大図鑑 II: 103-110, 123-138.
- 越智輝雄, 1985. 上野俊一, 黒沢良彦, 佐藤正孝 (編著), 原色日本甲虫図鑑 (II): 354-362.
- OCHI, T., 1990. A new species of the genus *Madrasostes* from Japan (Coleoptera, Ceratocanthidae). *Ent. Rev. Japan*, 45: 113-117.
- 越智輝雄, 1990. 日本から新しく記録されたマンマルコガネムシ科 (新称). 昆虫と自然, 25 (8): 27-32.
- , 1991. 第 43 回日本甲虫学会講演要旨.
- OCHI, T., Y. JOHKEI, & T. NAKATA, 1990. A new myrmecophilous lamellicorn beetle (Coleoptera) from Japan. *Jpn. J. Ent.*, 58: 31-34.
- 岡田裕之, 1990. トカラマンマルコガネ採集法. 昆虫と自然, 25 (8): 33-34.
- 大阪大学生物研究会, 1987. 日本にも居た真丸コガネ. *Noctiluca*, 39 (3): 84-92.
- PAULIAN, R., 1945. Coléoptères Scarabéides de L'Indochine. *Faun. Emp. fr.*, 3: 1-225. Paris.
- 1977. Révision des Ceratocanthidae (Coleoptera, Scarabaeidae). *Rev. Zool. afr.*, 91(2): 253-316.
- 1978. Revision des Ceratocanthidae (Col. Scarabaeoidea). *Annls. Soc. ent. Fr. (N. S.)*, 14: 479-514.
- 1979. Faune de Madagascar, 50, 57-81. Paris.
- 1982. Révision des Ceratocanthides (Coléoptère Scarabaeoidea) D'Amérique du Sud. *Mém. Mus. nat. D'Hist. Nat.*, A (124): 1-110.
- RITCHER, P. O., 1958. Biology of Scarabaeidae. *Ann. Rev. Ent.*, 3: 311-334.
- 佐々治寛之, 1986. 森本 桂, 林 長閑 (編著), 原色日本甲虫図鑑 (I): 165-201.
- SCHOLTZ, C. W., 1986. Revision of the Genus *Trox* FABRICIUS (Coleoptera, Trogidae). *Aust. J. Zool. Suppl. ser.*, 125: 1-99.
- 塚本圭一, 1991. 日本産食糞性 (広義) コガネムシ類の日本列島における分布記載, 放牧家畜などの糞処理昆虫についての基礎的研究 16. *Saikaku*, (10): 34-65.
- VAURIE, P., 1955. A revision of the genus *Trox* in North America (Coleoptera, Scarabaeidae). *Bull. Amer. Mus. Nat. Hist.*, 106: 1-89.
- 1962. A revision of the genus *Trox* in South America (Coleoptera, Scarabaeidae). *Ibid.*, 124: 101-168. (兵庫県川西市)

## ◇例会報告◇

1992年第1回例会を3月22日(日)午後1:30より、東京上野・国立科学博物館4階の実験講義室で行いました。講演は、新里達也氏((株)環境指標生物)による「日本産カミキリ亜科の分類学的追加知見」。多数のスライド映写を添えて解説されたアメイロカミキリ類などの問題点や新知見が大方の関心を集めました(別掲の講演要旨を参照)。

今回は思いがけずも佐々治寛之氏(福井大学)が来会され、一同の歓迎をうけました。氏は一昨年奇禍にあわれ、容態が案じられていただけに元気になられたことは誠に喜びにたえません。

少憩後の一人一話も多彩な話題で満たされ、和やかな雰囲気の中に午後5:00散会いたしました。

参加者39名 (例会担当、笠原須磨生)

## 例会講演要旨

日本産カミキリ亜科の分類学的追加知見

新里達也((株)環境指標生物)

「日本産カミキリ大図鑑(鞘翅目学会編, 1984)」出版から1992年3月時点までの過去8年間に公表された日本産カミキリ亜科の分類学上の追加知見を整理するとともに、現在研究中の課題を含めて、スライドをまじえながらトピック的に解説した。なお、今回の話の内容の多くは、1991~1992年に出版された新里の論文および「日本産カミキリ目シ検索図説(大林・佐藤・小島編著, 1992)」の本文解説をもとにしている。

おもな講演内容は次のとおりである。

- 日本産カミキリ亜科の分類学上の追加知見の整理
- ヒゲナガコバネカミキリ族の高次分類
- オガサワラチャイロカミキリの帰属
- ツシマアメイロカミキリとサドチビアメイロカミキリの関係(色彩変異と分布拡散)
- 西表島から発見された *Obrium piceorubrum* (台湾産)の近縁種とその分類学的位置
- 九州から発見されたウスモンメダカカミキリと本種を含むヨツボシメダカカミキリ種群の分布

## ◇第16回名古屋支部会報告◇

1992年3月8日(日)、本学会名古屋支部会が愛知県貿易館で開催された。この会は、ほとんど毎回招待講演をおこなっており、今回は京都市在住の塚本珪一氏にご講演をお願いした。また、名古屋女子大学の佐藤正孝氏にも、ご講演を賜わった。

## 昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号、有頭ダブル針も出来ました。その他、採集、製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6  
振替 東京(3) 21129  
電話 (03) 3409-6401 (ムシは一番)  
FAX (03) 3409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社

## 塚本珪一: フン虫の話

佐藤正孝: ロシア、ウラジオストーク訪問談

塚本氏は、長年研究してこられたフン虫の分類や分布などのスライドをまじえての多岐にわたるお話で、皆興味深く拝聴した。一方佐藤氏は、上野俊一博士(国立科学博物館)、齊藤明子氏(千葉県立中央博物館)と一緒に、ロシア沿海州を訪れ、ウラジオストークの生物学者らと交流した時のお話や、その周辺での採集談であった。スライドで見ると、コンクリート護岸がなく、樹木の生えた小川のほとりで、水生甲虫やミズギワゴムシなどを採集しておられた。昭和30年以前の日本では、どこにでも見られた情景であり、さぞ昆虫も多かっただろう。

余談になるが、この会は各自の一人一話の時に供覧する標本・文献・写真などを持参した人は、参加費を安くしてあるので、いつも3分の2くらいの人々は、何らかの供覧物を持参している。それで話題は豊富である。



出席者氏名(アイウエオ順): 青木哲郎, 秋田勝己, 岩崎博, 宇津野宏樹, 太田克人, 大塚篤, 蟹江昇, 河路掛吾, 川瀬英夫, 岸隆泰, 桐山功, 佐藤正孝, 清水清市, 志水基彦, 塚本珪一, 内藤通孝, 生川展行, 長谷川道明, 伏原隆明, 穂積俊文, 松井幸一, 村松稔, 森部一雄, 吉富博之。

(穂積記)

## 日本鞘翅学会

会費(一ケ年)5,000円, 次号は1992年9月下旬発行予定

発行人 上野俊一

発行所 日本鞘翅学会 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館昆虫第1研究室

電話(3364)2311, 振替東京8-401793

印刷所 (株)国際文献印刷社

## タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥6,200, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,870, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3個以下 ¥1,300, 4個以上 ¥850 (以下同様), 第2地帯 ¥1,500, ¥950, 第3地帯 ¥1,700, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥60)

## タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島2-21-25  
電話(03)3811-4547, 振替6-113479